

協議体メンバーの日頃の活動から見えてくる課題について考える

9月12日（火）に第2回となる第1層協議体を開催しました。第1回協議体開催以降の地域支え合いコーディネーターの活動報告の後、グループに分かれての懇談では「第1層協議体の名称検討」をはじめ、テーマ別懇談として、①「福祉サービスの利用のイメージを変えていくために…自立支援のためのサービス利用とすることをどう地域に伝えていくか」、②「シルバー人材センターに寄せられる依頼内容と登録者が希望する活動とのマッチングについて」、③「移動（移送）について」の3つのテーマに分かれて懇談をおこないました



■グループ別懇談「第1層協議体の名称検討」

第1層協議体に参加するメンバーみんなが元気になれる、そして、地域が元気になる協議体を目指して、第1回に引き続き、グループに分かれて第1層協議体の名称を検討しました。

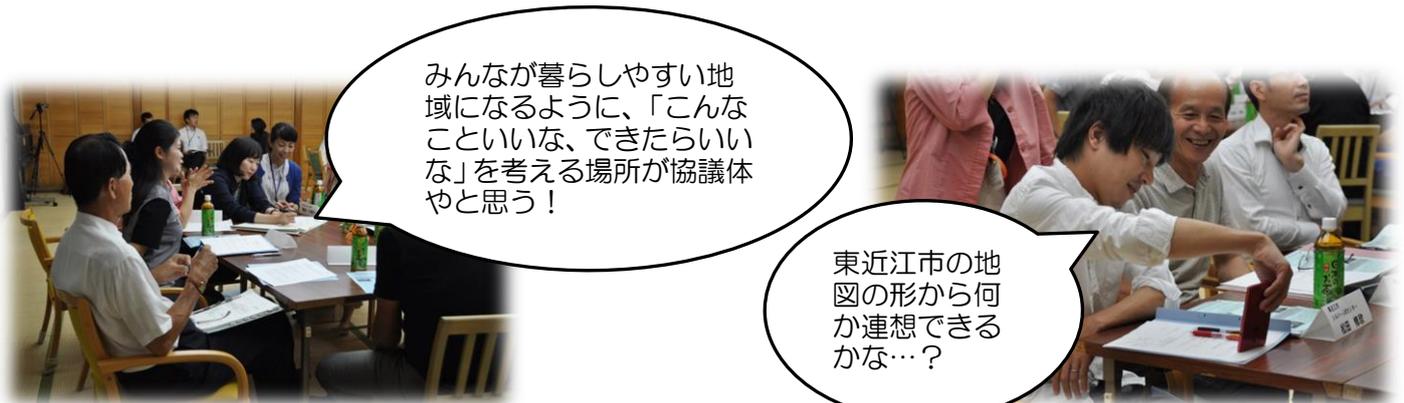
どのグループも“東近江市らしさ”を大事にしていきたいとの思いで、東近江市にちなんだもの（花、鳥、地図の形、方言など）を含むキーワードがたくさん出てきていました。

また、“つながる”“伝わる”“広がる”というように、協議体の場をきっかけに、自分たちの暮らす地域がより良い地域になっていくようにとの思いを込めた言葉も出ていました。

会議終了後には、出されたアイデアの中で「これだ！」というところにみなさんで票を入れていただきました。

第1層協議体名称(案) 投票結果発表!!

- ◆元気一層東近江（8票）
- ◆ごきげんさん（3票）
- ◆東近江市の地図の形（3票）
（犬、ワンダフル、ワンモアチャンス、NO.1）
- ◆東近江ドラえもん会議（3票）
- ◆フェイストゥフェイス（2票）
- ◆お互いさん（2票）
- ◆よっしゃ！やっぺいこう東近江（1票）
- ◆よりあい（1票）



■テーマ別懇談①「福祉サービス利用のイメージを変えていくために… 自立支援のためのサービスということをどう地域に伝えていくか」

- ・介護保険制度本来の目的は「自立支援」ということへの理解が必要。
- ・「サービスを受けるようになったら終わり」という思いがあるのは本人。家族は利用してほしいとっていて、本人と家族の思いにズレがある。
- ・年をとることや、介護が必要な状態になった自分を受け入れるのは大変なこと。受け入れられると気持ちも変わってくる。受け入れる準備が必要。そういうことを考えてもらえるような機会やはたらきかけが必要ではないか。
- ・これから、高齢者が増え、若い人が減っていく。当たり前の話だが、財源も減っていくので、具体的に数字で伝えていけないか。



■テーマ別懇談②「シルバー人材センターに寄せられる依頼内容と 登録者が希望する活動とのマッチングについて」



- ・コンビニや小売業は人手不足。短時間でも来てほしいと思う企業もある。最初の入口を工夫することで、もっといきいきと働ける人が増えていくのではないかな。
- ・例えば、コンビニ業務全体をすることは難しくても、品出しやレジ打ちなど、役割単体であればできる人もいると思う。
- ・企業側から見ると、シルバー人材センターにどんなことを頼めるのかが分からないので、シルバー人材センターができる仕事を企業に提示していくことも大事。
- ・シルバー人材センターの会員に向けても、人手を必要としている企業が「こんな仕事ができる人を求めています」ということを伝える機会があっても良い。

■テーマ別懇談③「移動（移送）について」

- ・欲しいものを買ってきてもらう、一緒に買いに行くなど「ご近所（地域）のつながり」の状況によって送迎のニーズがあるかどうか変わってくる。ご近所同士の支え合いの機運を高めていくことも大事。一方で、地域や家族とのつながりなく、どこからも支援を受けられない人を受け止める活動も必要。
- ・移送ボランティアに送迎依頼としてあがってくるのは、通院や買物など「行かないといけない」ところへの支援が多い。ボランティアの人数不足もあり、楽しみのための支援（余暇支援）まで手が回らない。
- ・介護事業所で、送迎車を使っていない時間帯にその車を使った送迎も考えられる。（車のみ貸出、運転手付きなど条件はあるかもしれないが…）
- ・利用者の安心や安全、ボランティアとして活動の幅をひろげるためにも、移乗の仕方などを専門職の方から教えてもらえるとう心強い。

